

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN TRAMIA

東西荟南北画作 完一冊

浮世心學夜見世漫觴

文政甲申歲
陽春新梓

圓壽堂發販

夜見世の始自序
修場戯者の方言ニヨ 玉ノキ 瞽人を
白丈夫を金札通錢と留利子と余銀
淺知と四羅理ト云コトハ四羅理ア
人物の説あま之面ハナ字匠也
人情ハ仙人傳謨の書ハ伎名けの續
学書風軒ハ小教王画ハ白雲小羽

筆の興仙傳、自畫の劍衣、モノの
寫はあやあめ夜見世小糸、圓く、春兩
の少仰、乞之て解剖、あやび書賣
乃利子、ナツキテモ、アリ。

申孟春

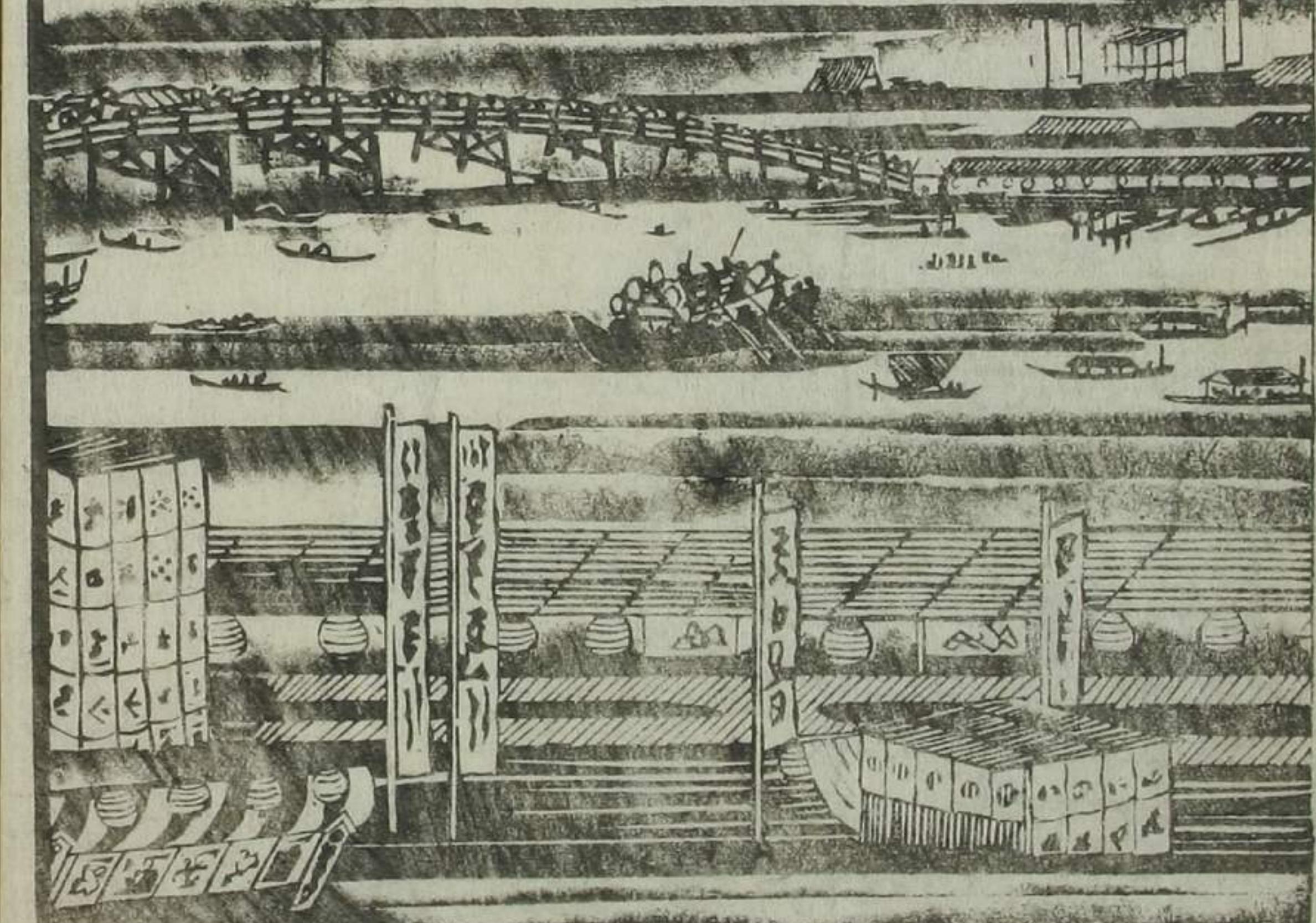
東西薈
南北

大目録
番附



古長女	女力持	鬼女	両國景
蛇女	籠綱	操人形	力持
人面大	細渡	河童	塗桶女

西國夜景圖



富士
多
紫乃
筑波山
嵐雪



世帯のちうわ

おだいのちうわ
たとへあらへま
のとくふをすうま
おうわらかくがむ
あうゑうるべー

ひうしゆうしの
あるあそびづる
力りちあり

アスとくらぐまに
のせんとて死ひて
かえりくらげ
うのちうもせの
まう女ねうせり



「さくかくあかごト
さくらうかアゲヌホドヒ
さくらうまれらやアホシマ
うセッガーナヤアホチホラ
福立さんざううらまくまきト
うからをくじまくらうんざ
あれも

「こよへ
ウミヅシ
もうギキ
もびとれ
ふりアミカ
モリヒゼ
盤



ちうわめうどうとどれに一の
子せりばせりうらつねくさん
あひたきぬくらうの内ヌニをる目の
子とりわきうきうの子せりびすうと
むくらうゆきとりうれこれのくまひふ
あくらうかくうぶきうらうかく
三をん目のとくらうもく子くヌ女がうが
ああうきくらうくゆくもくもくひトシふ
そのよふあがむとおがんこまうふまう
あそれくふきあうひ三味せんのなうとま
ゆううのぎりすひうくあるはつけうや
ぎまうめりとれじでくアと
てすくどくとくりのとたと
あくらうまうかくと
あくらうかく出せらう
わくらうわくのとくどとのがうが
エー二ざんわ三ざん月かあーと
をももくとてすどもふはうと
させああくねト一トかうく
めくとくらうじふくらう
つぐまーさそうじまくまで
のうりきまくさんやくの

■ もわらの
もこゑとト
ひふでまぐ
あひてとくくらう
をんとねがけが
ふがゆうせトトうだかう
まゆうねとちうまくく
あくの子供あがむとまセ
ちううだくとまれば×

ちうわめうどうとどれに一の
子せりばせりうらつねくさん
あひたきぬくらうの内ヌニをる目の
子とりわきうきうの子せりびすうと
むくらうゆきとりうれこれのくまひふ
あくらうかくうぶきうらうかく
三をん目のとくらうもく子くヌ女がうが
ああうきくらうくゆくもくもくひトシふ
そのよふあがむとおがんこまうふまう
あそれくふきあうひ三味せんのなうとま
ゆううのぎりすひうくあるはつけうや
ぎまうめりとれじでくアと
てすくどくとくりのとたと
あくらうまうかくと
あくらうかく出せらう
わくらうわくのとくどとのがうが
エー二ざんわ三ざん月かあーと
をももくとてすどもふはうと
させああくねト一トかうく
めくとくらうじふくらう
つぐまーさそうじまくまで
のうりきまくさんやくの

■ もわらの
もこゑとト
ひふでまぐ
あひてとくくらう
をんとねがけが
ふがゆうせトトうだかう
まゆうねとちうまくく
あくの子供あがむとまセ
ちううだくとまれば×

塗桶女

は女へつてあるつんざきうロおうで
同をみうござるチせぬあありあ
然れどもわんの福のキでれどごら
なづつとつよエアでさりませぬあや
がくへ小ぞうぐにとヤまくすう
まくまくすう

「さを國をみのま

はやまとまゆの

ちうだねま

ちうつま

すたひだ

あさむれけ

山のまへあり

まくとふるトあも

何とくわきとくにあせトヤテ

あらしめをかくとよどりす

車のすうですうとよどりす

すくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす

まんまくとよどりす



△少しうあきと折りぢもま
るるううなみくとあらの
あらううまれあらけくと
せたととくうへ内へ
とぶくとくとれきを

ざうそきけねうされべつひトぞんドキス
のえびとまけうしてくれんト小ぞうもいじ
あらうじよ、さうかそくへらねえこれとぞう
しとくひじけトヤうらサとアラウケく
あがづ一筋あーくくうじがふうをくのへあく
ありとそのものじうじうのがわうちくようく



鬼女 おもぞら

上三才

つまひ思ひでとありやうくわふ

あひとくわのら

まがりくと

さううひかくと

さうせゑ

うけだり

おはう

さうや

おのづまう子ふむふなまきて
おおむとめうとよだりとすお
年たらお耳までまけやをうれ
うそこらでごうよせうが
あくさうでませぬ顔
りえずともおうへんねゑ
うちのあせらのあせにぞんきを
あれうきまざんまあひる
ぞくのとすくふをあくやを
おもへたとみゆをさみてるを
おとすあれゆふまのとふ
おとすあるむじがおとすてうま
姫をらうじよが云ふおと
ごとすこれうきとお鬼姑女のせよ
せねがあしゆねのうのまくまく
あれくとあく日うれどとくと
とあくにとあやなるエヌ
あきらめかしゆうたま



鬼女曰

「アヤシキ事らむかうが店のあへどアヘ。あん
まうがちぢやア被笠へけちんをうづた籠ぢねるのうナ・茄子
とあるが漁^{ハス}と色とアヌ。あは五のよかみのうまひび。くわうじ
まあいからうエ付らうす。のと波でつまくのよトツミと
おとて長家^{アシマ}をあらへりきよ。チット三のせんと人の
さるエとくとあとが一ヨ。わんオへつけぬでけ被笠^{ハサミ}をう
づせ。おめの國がヤアハベルト太根とくらる。トシモヤ、お五
時ちかよとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
けうととくとくのウ。おもへがゆとよくぬとのむくて
いひあるなれだ。あぐのんでひく案ですするより不^セ

たのーミハ私エ。すとどどもお被笠とあうがてエト朝んでおき。
おひらがとむごものもあとさんのでーのあぐふ。もくたの
エヨ。ロクひののてつむとくへててがまー。けふも^{ハシ}帶どう下
ひのあがニ茶金と田^{タカ}うどん^{タカ}ヤツタヌ^{タヌ}の財
角^{カツ}來^{カム}三ギウ^ス長家^{アシマ}中^シあるきうー。わん^シ
まや正みび。男ハト^ト。ジハビ^ビも^モきくー。あん^シ
ひハビ^ヒとくのぶかんのせ合^ハの^シアヤ^{アヤ}と^シき^シと
あるトモ^{トモ}とくとくせゑひうちのと^シき^シか
うとあ^シ。目とむだ^ダヤワサ。あれ^{アリ}ヨモ^モト
あひがうのあでぞ^ゾ。男^ハアガマ^マヨ。カム^シヤ^シナ^シ
あひがう。あ^シま^シあ^シと^シか^シが^シが^シゼの^シモ^モト^ト

操芝居 あやづり



「さうああくらまうぐでまくら
しまうねうのそーひるんとすと
あくそそくううれううるううの
うううひヤノホーとよざわ

「さくねあら
なれううすま
まのわくへまると
あくまき

あかうく無どよ。
みのくらそぞうくひのじごうくます
よどきのくまくうりのまくにふのゆじに
とくまひともとトあく不女をうがんの
ふきとでうその三味せんと引とくさき
み歌ふあらねあう

さればくもあからうきとぞ共一かのあが
きまくろとあまかへーヒモラニギローく
とくものくまくうりのまくにふのゆじに
とくまひともとトあく不女をうがんの
ふきとでうその三味せんと引とくさき
み歌ふあらねあう



「ちくさんへすまうねりのび
あくこひづらんでかくち
あくませとりとまくまく
みとくまくすくとくまくま
けりのまくにるすゆの松工
トヤアミーーううくうそと
つてくさんくふあくく、ちんかく
病工こうあかうううきらマア
え日のまくとあく工うアマキ
久をじまうとまくううやつと
きくりのうううト女ぢう

「アのくらうみちのうをくらうの
とくまくかくうだ正事まくまくだ
まくくうてかくうトがみ山でゑあれる

「あだかく人のあくく
まくまくのうをくらうの
くのまくくと
よき

河童 うゑ

ひらうとろく籠後（ひぐさ）の國柳川（アマメダ）
りけそりまことろをこしとへす
えがゆ小ぞうわがむけません
もんそうふなけキムゴウ國のこころ
ちうざくまのひよりたのへをざぶ
きんとおひれこまうますよひ
且歌う子供やあみぞといふと
はうかう主とぞもとと
りぎうともなります
せんがりませぬとく
張考りとぞきりぬと
五年もそろがんの
つまひくがよどります
ふうんとせきつけく
川ざらひだきくとたか
わらーのうざらひと
さーきなうばすく



「あそちるあれこうち叶美事
まうどうがむづらへひなれが
そんのうゑを

おやまや
善季

あそとぞうけよとて西冬
あくちきかわらあそで
びざうすとああみと
ざくねきてゆるきとつれ
あそとぞすもと
ーんたのわうか
うあがやへ抜けぬを
だけ舟をキモねぬを
いすこぐつまくと
とたれシントあへ
車とこをうを
じきくきよと
じきくきよと
まよせんかあそ
瘦の四ツ毛をよせく
あらとぞりゆ
じきくきよと
せきくと
あらたキよと
まよくうりすと
まよとぞうだるくと
じきくひトヤナ

「川玉と
おなてとけ
とくとく
川あれざ
引きうこちく
けと端も
よとあくととゆの中うち
るのあまけとあとひと

うすにとくの日の玉をうがんの
うじ玉とゆくとをまのあ
あめぢうとまうるねく
きまのまうるねく
あがくありゆ
りのトありキよ
うく忠低とつ
とく

女の力りち

女の力りちとさうしたの大きめりちあぐるとありの
ひよきをだせやうぬとありつらへどりちよるく
からうりくふりわかざくとトタむもかく
やく福べりわあくませぬ「ラヤく伊豆えん
もやかすとさんふ菊せまさんアレリヤドヨあき
でうるとあくへんをあがでエリごんしかあくす
せうみくみ種アまれす」とくモシカズ
アリをあすす子さくやちちうこと
おまくはきらうであつ
キナクヤサツフヤバキ
スルモチ



▲おまきせう
でまくくくの
まれりのこゑとせんべい
おやのつせあわくわの
あひやうれすすなまうサかくら
山あれおあらのさうらモニ立あき
さくまを一くんづきやのむをあくふくはく
さんすりるとがねヲヤハシハク
おまうげたモシをたさんあら様へますコヘアリ
とみかくわうぐもよなりチスそれへとむ
たかがくわう子をわいぢめであるモシあるとまへ
きドウをへうつり考ちんとあくとわくとてあそ
タ日とおきこすやすうでしきうふ
あぐねあくさがめあぐとこくらひうふ
あうりあそびすうういたでありキテヨ
チヤくおまえうらさんへやますよろ
おみとやまえあまこのゆうみおみ
あとくやまえひこアラウカカウの
まとうドウコイをあこアハ

籠

細

工

○此女がくべんせりまへ
うきぶるくの口とといふ時へ

まへくんりやくと
せしむせんじ

をとくで
あくまで

うきくわぐ
わくよこね

まくすとくら
くくおふみ

かご細のてなへたれをかうど八手のひから
さんとよひなへてござさりませぬうちか
左まへてはがつくりのまへるよませねが
うぶらのーをうそあくせの中家ぎやう
人ののをかどねけでござりますうさう
せめ玉さんちうど肉すゑくアセや
わうらう人のエジのあら
きんじうのざりそくざ
いふおにまつけた
せすトヤでもたた
ウシトヤだり
けより食へ
りうたうをす
もううよトヤても

ウシトヤのまく
ぬふひづくまれされてあくへで
あう種うら舟のうそくもうく
あるうちうらど不のさんぞくへつけられ
この種うされーあトとゆうづけのあく
食ハ前あんじよトソくもがりうんく



かくとくの
がくとくの
おとくの
まくすとくら
くくおふみ
まくすとくら
くくおふみ
まくすとくら
くくおふみ
まくすとくら
くくおふみ
まくすとくら
くくおふみ
まくすとくら
くくおふみ



あら玉げ良むうらやるのせあさる
まうりんぐまうるのトあつひだうら筋
ちうとひくめにゆへふトうてもうおど
せちわくふわトゆへかへとおうりあひの
かふあくひだすりこまれきさんかトのうく
ウシクトがさうづ方を陽のうるした
こかくらんぬあふが志ごりけのうけす
やでもウシトヤうへくともおとト
きのびれたまいまやの内へあれどもみ
ありすがえをらでこどもども
こうとくへありませぬトヤとも
大せうちくとをり今はんあれ
おひこだよをくあくとくせんかく
トソくとくわんくもうがむあくの手へあく
あくらうきをあくるうあれもんぐも
あふんでまけとつけあるが
じひトイのまくらんく
うまぐのとだまう本店へも
えきめくとくとくウシ
ごりんかよまねぐなるまく
わくらととくとくとくとく
もくじトイのまくらんく

「あくらうヤま
ひばくぬけ左う
たどりあくぬけこれぞ
四のあんがくまくとくとく
うじて他こまうふがくんがうト
つあへづまるであらうス

おうあああああ

綿渡つせき

あんこ出るをばくわきれよがく
だかうませうころあわいとひまく
はくらねだり見世とわらふるてゐるど
ふとひかひりすがくとがくとがくとが
りやくとめねだちおほきくの
あくわいのとどとどととと

まびト内のかわうのが

けぐとひみかで

されがむわきた
あひがむとひせうふひ
かんじとめを方さぬまわと
そぞうのまゆの北を
あらぐくあたあふとがく
えひよと高日キモうらさき
つづくくむうキまで
あきよくのとをがくとがく
ああますゆべらひつる
まくじとよだくみのとを
あおひまきがとがくす
そくくくあへうたせめ
つからうががんじ
あとのつかをきしん
とうふをもがくごぬ
やうせんぐりくまく
まくせややうの
ふくにだくうし
あひともせん
びんかくせき



又六月三十日
ゆかくひつひをかやの
やぐのあんぶくわく
うらねど一きうけいツがくと
るきうき一ちうびぎでだす
うくきよかくわくわく
うりきよかくわくわく
こうじゆくのあくまが
うりきよかくわくわく
うりきよかくわくわく

お女がう子供と
あんらくふせうき
まよト母おやくうき
ぐうきくせんへぐ
まくのせがれいわそと
できそれくおせだまくと
まくとけくまくと
せくみくとくれます
ぐくとくおやくの
ああとねがひます

きふちやう口とや
まくらせんもひ付が
まくきぐのつう用ひでた
ます

舌長むきわ

け娘のちのまくひとゆうふ
すりアモリヤホシとあくくと
何うヤキモチ

フタノアノウミスルの
あうトモヒヨモアンドモ
モテテモテモテモア
コムネモモモ代の
きぬわらわんきもの
ひくゆたおやア
福エラカムル
されそが
三十二文の
うゑひざけ
ナゲタ
さりの
わくよまちけ
ウラとたのんで
あざけども
そればくアレモ森と
つるそゆふれまろあをの

「モロモロとごらん
林小ちどりをぐまま
ホイクムキモロハ
うぐみとどりのと
ツイモロアギモ
かくととく
あサ



ほひらとくふかくどのも
アノ角のこみうどのかど
あくせりのとまきぐくと
すのどくハトモトモトモ
うちんとあそんとくりせり
きりやアツメがとトモト
みるかのとまなこと
くまびりくらうそやくう
りのとあくアノ子もく
きくうのまくくねくも
ひくアモリキメモモモモモ
あんすり初のとが福エモリム
ふせがぢさんらありあそんと
いどりかへ金をまんざの小石のや
まともうこのあく一去耳もよぶ
えくきくきくわらモヤシモモモ
南北もモリモリモリモリモ
南北もモリモリモリモリモリ

「この白扇へ
りするの先月
さくふくんき
巻き物
のう
ラヤくらひく一云が
ゆあがくのうり模町の
仙女うござれどつらちくア
がのわくはづづき福エ
かくきくねエうちをまく

蛇つらひの女

よしや

十三

○やうこうのゆゑびとをす。

ま人のどちらがあうをすれ
そんじくやアとすれど
びんわうせみ
をうるべ

天相をあがめあうがなれど村
のうへあらむすれうあるとくで
魚がときひますふとぬらうどう
司まくしもとさんがゆじり
福うらふんかふじとのゆうかとみのを
ふあんじうふふ小むらどんが
あひこの葉としのの福うらふ
うらへて下り一何を
やあひひおの年ません
うらへやうとおはれ
ふそりやうひナニあれが
きうさんじやたまがうるふ



かかうのうとうばんく、甲あう
素のうだかのあれれりかみて
めをうどく、死わしがひはんまう
彩うづくをだらうどくとあらうや
かかうのうとうまで福こうぐや
あやうえのあのうとあらてかれ
ばるうかかうとあやうとあらふと
あくせくとうれいれどもまのうくと
かうわちやとあらうじやうどあやう
あくせのあをあうとあらふとあらて
かまううか」をやうれ福うううそ
きいた私エコウくこれへとあらき
あら私エコウくこれへとあらき
かぎううのあひざとあらき
市客でがまんほのあひざとあらき
あら私エコウくこれへとあらき
かぎううのあひざとあらき
かぎううのあひざとあらき

▲来てあられ又ひざりやあつら
あらうにちにねあうがんの
おーのえとだまくーとまげと
まへてあらうりひやうこうと
きのむがてあら何とあら
さんふやうとうそをうりが
あんかくと何とある
わのうアーラン
どまく

十四

人面の犬

アラム犬でうわへ
人面あんとばくら
めぐらしひのへ
ござりませぬこれら
モジキあくさんせりのへ
かくわのとるるトヨヒキま
ギトアキマニヌシカミトミキ
カミク放キマシカミの
モウをぞくりますモウが
きく新言んの太かんふあぐ
あらうきに限半うの放トアリ
モウくある事あんじとアリ
あくせまするいねざがく
モモウ西人ひ世うらかるちく
あくうどくうえト

「体内が見ええがれをまへ

不思もあらう大不あきト
アゲスリ申はめがみを正と
ああんびうのむごの人に面の犬あ
人面うづう申様んをさうらもあ
ソウくの悪名と付らまつるれど
うアミトアラミ孤くあくらひビギト
タケダ君不ちがアシテがさう金んをシ
アシの下あくらの筋あめもが
あめわうどざうと一力の仲室
ちきうちめトサあくセたれど



アラム犬でうわへ
れらよあくさん
あらうかうらう
子供のゆゑに人をあ
せうふがりあく
つをあらうかく
答合よくあんらへてありま
せあれ走りとくらす
子とあらすまの
をちであく
キモ忠ト孝ト
つどうう羊
子れし
「ふううう
羊やあるかと
うううえ



文政七甲申年
孟春新販草席

自畫東西葦南北



御顔

ひきんせんぢよう

一包小用ひて色と白くしきらとこまにす一包を守
かみびえりのうたどります甚がこうゆまくす

妙藥

みょうやく

京橋南傳馬町三目

坂本氏製

家秘

まうりうたん

一包のひを一包甚め一包のみを一包アモウ
トドリモウ一づり一包アモウ一舟からの糸

一方

流霞

円

京弘前もんえ

調合

名家

なまえさん

五包のひを一包甚め一包のみを一包アモウ
目一包小用ひてそくざふ功あり

傳方

紅礬散

弘所

芝神明前

板堀耳泉堂

和泉屋市兵衛

